

ホワイトスペース利用作業班の 設置について

平成24年5月11日

ホワイトスペース推進会議

メール審議により決定

ホワイトスペース利用作業班の設置について

背景

「ホワイトスペース利用システムの共用方針」(平成24年1月 ホワイトスペース推進会議取りまとめ)

様々なシステムがホワイトスペースを共用するための技術面、制度面、運用面における方向性を示し、

- ①ホワイトスペースを利用するシステム間の割当て上の優先順位
 - ②運用調整による共用の実現
- を取りまとめ

各システムの制度化、実用化の進展

- エリア放送 (平成24年3月制度整備 平成24年4月～ 実用化)
- 特定ラジオマイク(平成24年4月 ホワイトスペースへの割当て及び既存帯域の使用期限の決定
平成24年6月 技術基準策定予定 以降、実用化)
- 災害向け通信システム、センサーネットワークシステム、無線ブロードバンド通信等については技術的検討中

ホワイトスペースシステムの本格運用に向けて、運用調整に関する具体的な仕組み及びデータベースの構築に向けた検討を実施。

検討体制

ホワイトスペース推進会議

ホワイトスペース利用作業班
【主査】森川 博之(東京大学 教授)
【構成員】

地上デジタル放送、エリア放送、特定ラジオマイク、センサーネットワーク、災害向け通信システム、無線ブロードバンド等のシステムの運用について知見を有する者から主査が指名。

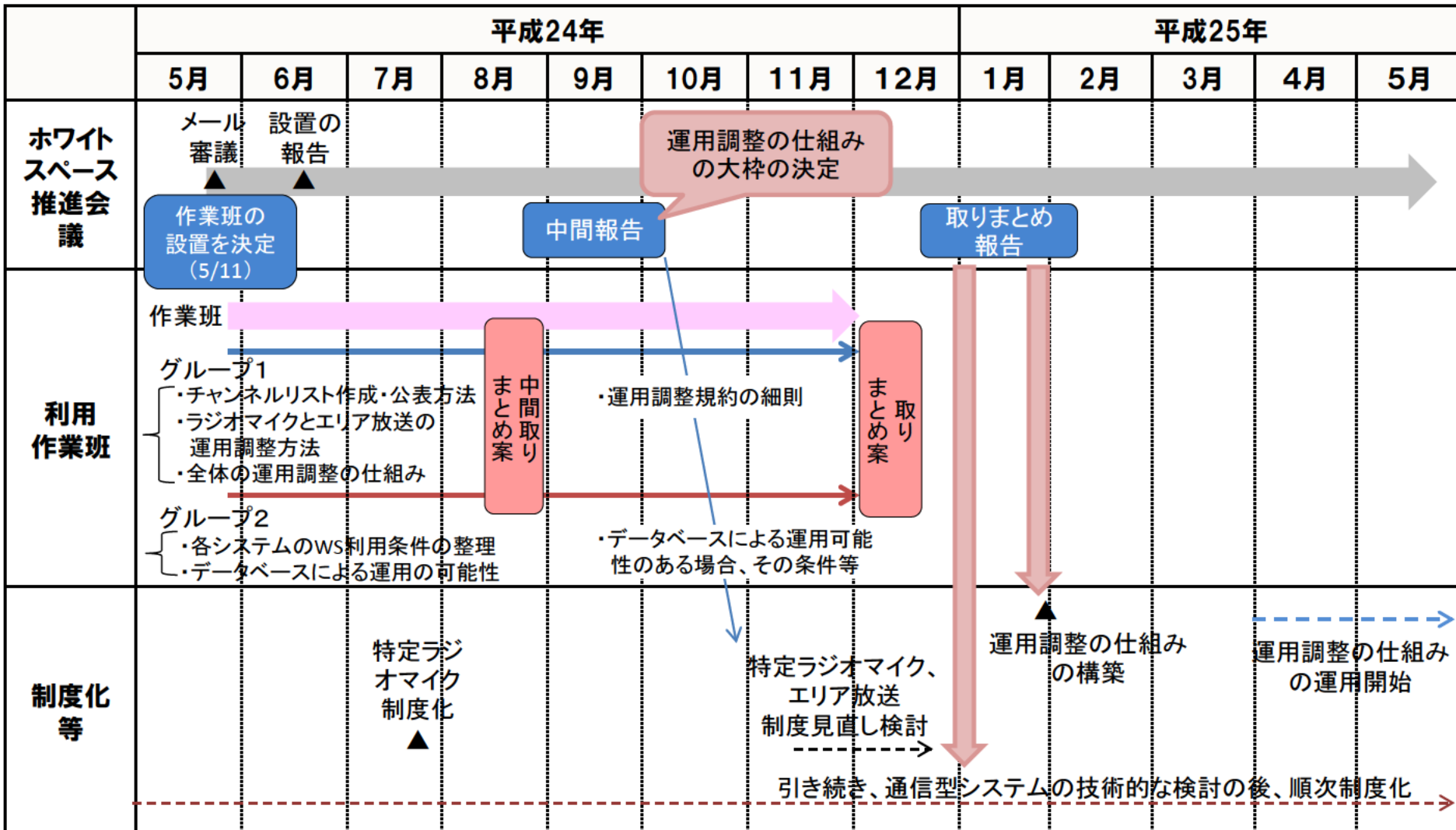
ホワイトスペース利用作業班の検討の進め方

- 作業班の検討は、ホワイトスペース利用システムの実用化のスケジュールに応じて以下の2つのグループを設ける。
- 2つのグループでの検討内容を作業班で共有しながらホワイトスペース全体で調和のとれた仕組みとなるよう検討を進める。
- 運用調整全体の枠組み等、ホワイトスペース利用システム全体に関わる事項については、2つのグループ合同で検討を行う。

ホワイトスペース利用作業班

	グループ1	グループ2
検討対象となるホワイトスペース利用システム	特定ラジオマイク エリア放送	災害型通信システム センサーネットワーク 無線ブロードバンドシステム
検討事項(案)	①チャンネルリストの作成及び公表方法 ②運用調整機関の位置付け及び業務内容(年度後半で運用調整規約等を検討) ③ホワイトスペース利用システムの免許申請時における他システムとの共用可能であることの確認方法等 等	①各システムの運用形態及び各システムに共通するホワイトスペース利用のための条件の整理 ②データベースによる運用調整の仕組みの可能性 (グループ1での検討①②の結果が流用できる場合、改めて検討を行わない) 等
作業班主査等	主査:森川 博之(東京大学 教授) 主査代理:高田 潤一(東京工業大学 教授)	
各グループ構成員	リーダー:森川 作業班主査 地上デジタル放送事業者 特定ラジオマイク関係者 エリア放送関係者(ホワイトスペース特区におけるエリアワンセグ実証実験実施事業者等)	リーダー:高田 作業班主査代理 地上デジタル放送事業者 災害型通信システム関係者 センサーネットワーク関係者 無線ブロードバンドシステム関係者

検討スケジュール



スケジュール(予定)

- 平成24年5月 ホワイトスペース利用作業班にて運用調整のための検討開始
- 平成24年8月 中間取りまとめ案 (平成25年度以降のエリア放送及び特定ラジオマイクの制度見直しに必要な内容を取りまとめ)
- 平成24年12月 取りまとめ案
- 平成25年1月までに運用調整の仕組みを構築